

琉球大学学術リポジトリ

知能情報コースのグローバルエンジニア(GE)プログラムにおける実践的英語教育の支援事業について

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学大学グローバル教育支援機構 公開日: 2019-05-27 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 姜, 東植 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/44529

知能情報コースのグローバルエンジニア (GE) プログラムにおける 実践的英語教育の支援事業について

工学部工学科知能情報コース 准教授 姜 東植

平成29年度大学教育改善等経費により「知能情報コースのグローバルエンジニア (GE) プログラムにおける実践的英語教育の支援事業」が採択された。本事業によって得られた成果について報告する。

1. 事業概要

本事業では、第3期中期計画に掲げる国際性豊かな人材育成に対応したプログラムとして、グローバルエンジニア (GE) プログラムを知能情報学士教育プログラムの中に準備している。エンジニア育成のための専門英語に関する講義や、海外インターンシップの GE 向け科目を設計している。本設計の実現のためには、英語運用能力に関する基礎データを継続的に得ることが必要である。

平成28年度には TOEFL-ITP で試行を行った。しかしながら、海外でのインターンシップや海外の技術者とのシステム開発連携といった場面では、ビジネス英語の運用に関する現状把握がより重要という結論に至った。また、TOEIC L&R テストは、「リスニング力」と「リーディング力」を測る非常に人気のある試験であり、世界約150か国、14,000の企業・団体に活用され、年間700万人が受験しており、英語能力を測る世界共通のモノサシとして、英語によるコミュニケーションの促進に大きな役割を果たしている。このことから、日本企業の7割が採用の際に「TOEIC のスコアを参考にしている」と回答している。TOEIC で出題される問題は非常に実用的で、かつ難易度も標準的である。そのため英語学習初心者から上級者まで、幅広い支持を受けている。

一方、近隣国の韓国では、大学ごとに生徒の実力を対外的に保証して、就職競争力を高めるために在学中、各種の資格や一定レベルの語学力を備えるだけ卒業できるようにする、卒業認証制を実施している。このため、現在、多くの大学で英語能力を公信力と認知度が高い TOEIC 成績で認証している。大学教育協議会に登録された全国の4年制大学204のうち、2016年現在、卒業認証制で TOEIC を活用する大学は113校である。これらの大学では、ほとんど一定の基準の TOEIC の成績を卒業基準に要求しているが、基準スコアは、入学年度によって異なり、同じ大学でも専攻と系列に沿って差等適用している。卒業認証制に加え、TOEIC は、独自の卒業、英語試験、卒業論文でも代替利用され、早期卒業と卒業試験免除の基準としても活用している。

よって、29年度は、TOEIC L&R IP テストを用いて以下の事業を行う。実施方法は、3年次前期で本経費による英語能力事前測定を行う。その後、成績上位者を選抜して、システム開発に必要なオープンソースのドキュメントや技術ブログなどの英語ドキュメントを継続的に読解および作成するために必要な英語力を養う無償の英語独習教材を紹介し、継続的な自主学習を学生自身が行ない、教員は定期的に進捗確認を行う。6ヶ月後、同様の事後測定を実施し、能力向上を測定する。(事前事後は同質試験が望ましいが、事後を GTEC で置き換えることも可能である。)

以上の取り組みの効果検証やグローバル人材の育成に必要な科目設計、改善点発見のために、基礎データ獲得が重要である。琉球大学では1年前学期に共通教育科目大学英語の一環として GTEC を実施し、3年後学期に同じく GTEC を実施している。本事業では、国際社会での活用性や大学院進学 of 動機づけを考え TOEIC を実施した。3年後学期より専門教育としての英語科目がスタートすることから、3年前学期を実施のタイミングとし、47名が受験している。

2. スコア分析

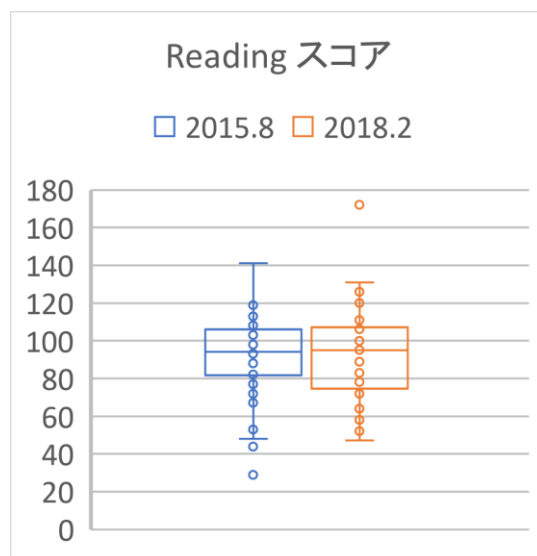
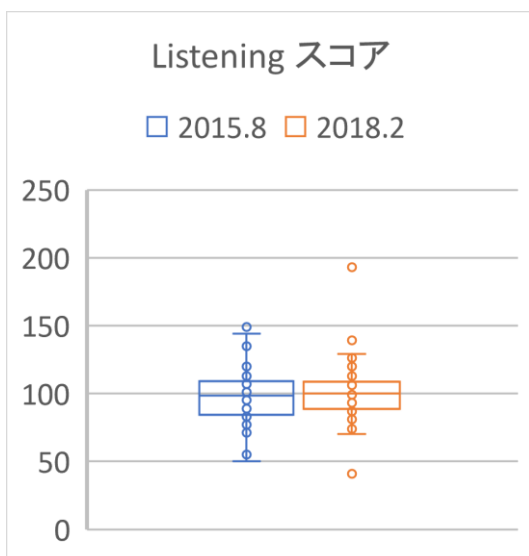
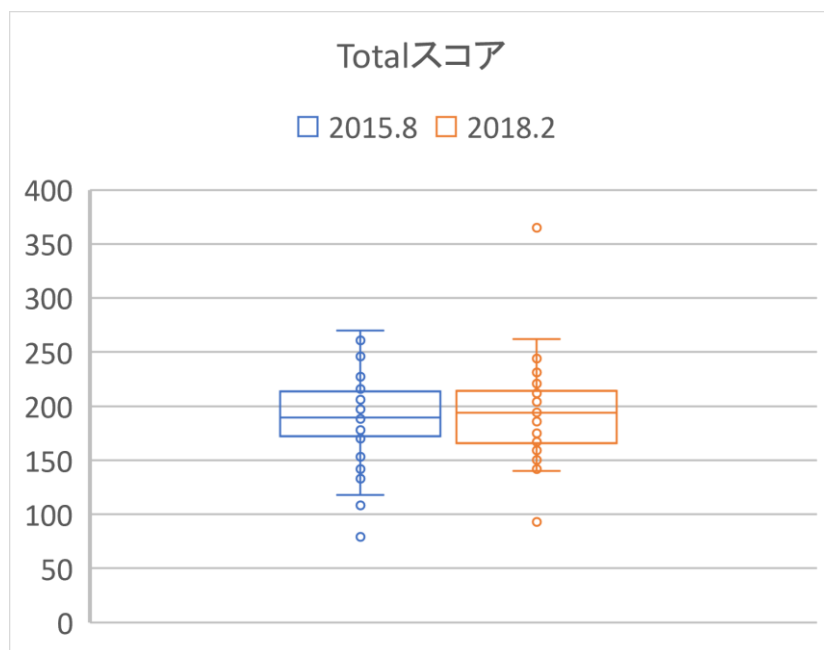
TOEIC は Listening と Reading テストがあり、スコア設定は下表の通りである。

セクション	解答時間と問題数	スコア範囲
Listening Session	約 45 分・100 問	5 点～495 点
Reading Session	75 分・100 問	5 点～495 点
TOTAL	約 120 分・200 問	10 点～990 点

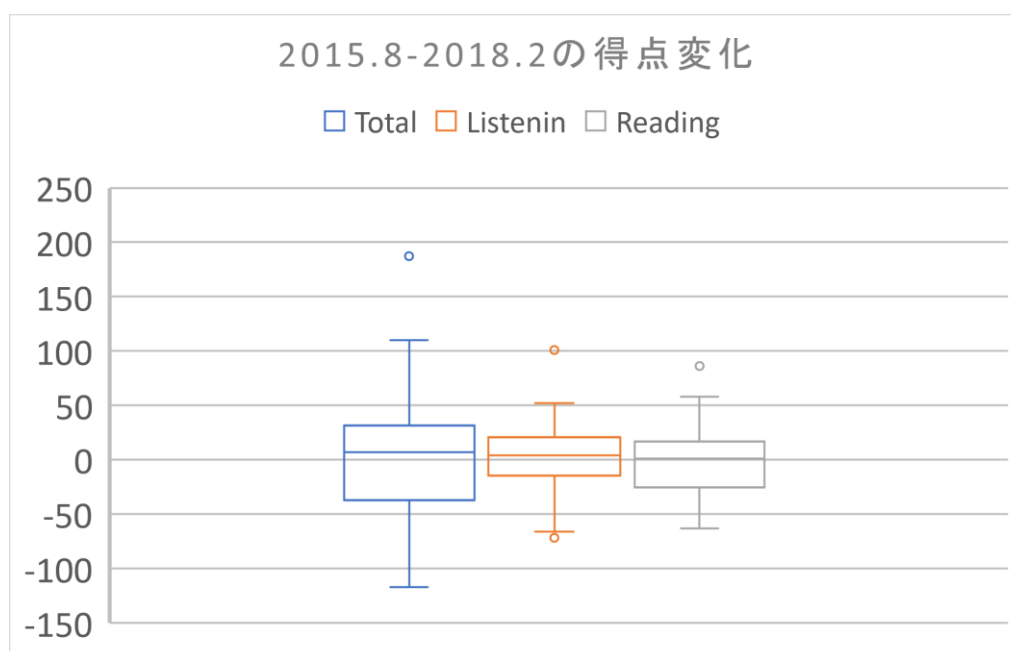
平成29年度に受験した47名の得点分布は次の通りである。一部に、スコアの非常に高い学生もいるが、総じて全国平均を下回る成績であり、特に Reading Session が弱いことがわかる。



次に、同じ学生の平成27(2015)年8月実施GTECと平成30(2018)年2月実施GTECのスコア推移を考察する。一方、GTECは、Listening、Reading、Writing、Speakingの各技能は、250点満点の配点あり、4技能を受験した場合、1000点満点、2技能を受験した場合、500点満点となる。琉球大学で実施しているGTECはListeningとReadingの小項目であり、スコア換算が困難なため、GTECスコアのみでの推移考察となった。次の図から分かるように、各成績に顕著変化はないが、2015年8月に比べ、2018年2月の方がListeningもReadingも少しだけ得点が上がっている。特に、Listeningにおいては、バラツキが小さくなっており、能力の底上げがわかる。



また、個人毎の2015年8月と2018年2月との得点変化の分布を次の図に示す。3スコアとも平均値はほぼ0であるが、Total スコアの変化の中央値はプラスであり、過半数の学生が成績を向上させたことがわかる。



最後に、下記の表に他学部等と平均値での比較を行った結果を示す。平均値においては、全学と比較し若干下回っているが、変化については情報工学科の方が特に Listening においてプラスの向上を見せている。

	2015年8月			2018年2月		
	Listening	Reading	Total	Listening	Reading	Total
情報工学科	97.39	92.45	189.84	100.64	92.19	192.74
全学部	113.04	107.06	220.10	112.77	107.16	219.93
工学部	101.26	95.48	196.75	97.23	92.04	189.27

5. まとめ

IT 分野で要請されるグローバル人材像実現に向けて、英語能力の現状把握とビジネスコミュニケーションスキルの涵養のための講義設計の観点から事業実施した。本事業で実施した TOEIC 受験は、学生に対する意識づけを強化するものであり、GTEC スコアと合わせて学生状況を客観的に把握できる基礎データを獲得できた。分析の結果から、情報工学科学生

の英語能力が、入学時レベルより向上していることが確認できた。特に、Listening スキルにおいて顕著だったことは、専門教育のみならず英語を聞くことを意識していることに起因すると考えられる。しかし一方で、スコアが低下した学生もいることから、学生の学習意欲向上のための海外研修、実践的な英語教育科目を提供する仕組みの構築、さらに授業での英語活用の機会を拡大することが必要である。学生にとっての主関心事とは異なる領域ではあるが、カリキュラムの中では重要な位置づけになっていることを教員も含め理解し、いかに主体的な学習態度を定着させるかが鍵となろう。

平成29年度の工学部改組により、新たにGE (Global Engineer) プログラムが設置された。このプログラムでは国際インターンシップ等の能動的な活動が課せられており、一般的な英会話力や英作文力だけでなく、実践的英語の習得が求められている。その効果的な実施に向けて、今回の基礎データ分析結果を活かし、カリキュラム及び授業方法の改善に取り組んでいきたい。

- 謝辞 -

GTEC データ集計において、学生部教育支援課から協力頂いたことに感謝申し上げます。

参考文献

- [1] 一般財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会, 上場企業における英語活用実態調査 (2013年)
- [2] ETS TOEIC, <https://exam.ybmnet.co.kr/toEIC/status/graduation.asp> (2016年)